

---

---

# NEWSLETTER

日本保健物理学会

No. 49 Jan. 2008

---

## 目次

企画行事	1
シンポジウム「内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準化校正方法」案内	1
理事会報告	2
平成19年度第3回理事会	2
平成19年度第4回理事会	3
企画委員会報告	4
平成19年度第3回企画委員会	4
保物セミナー2007	6
シンポジウム「中越沖地震を経験して放射線管理部門で何を学ぶか」	6
編集委員会報告	6
平成19年度第3回編集委員会報告	6
国際対応委員会	8
放射線防護標準化委員会	8
第15回放射線防護標準化幹事会	8
専門研究会等報告	9
ICRP 新消化管モデル	9
若手研究会	9
学会掲示板	10
「学友会」活動報告	10
インターネットグループの活動	10
学会刊行物の案内	11
会員コーナー	11
保物セミナー	11

## 企画行事

### 保健物理学会シンポジウム — 内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正方法 —

我が国の原子力施設、被ばく医療機関、大学・研究所等における内部被ばく評価のための体外計測器、いわゆるホールボディカウンタの設置台数は既に90基を超えています。その一方でJIS等の規格に基づく客観的な校正方法は未だ提示されていません。米国ではANSI N13.30に基づく校正の考え方が明記され、事実上のJIS上位規格でもあるIEC規格に於いても、2004年には体外計測器に関する規格、IEC61582の審議が完了し発行に至っています。これらに鑑み、保健物理学会では「内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正法」専門研究会を平成18年度より立ち上げ、科学的知見に基づく合理的で標準的な校正方法の検討を進めてきましたが、このたび、現状の問題点把握と諸外国の規格整理作業を完了し、体外計測器に関する標準校正の考え方と校正方法の骨子をまとめるに至りました。そこで、関連する諸分野の方々から校正基準、放射能トレーサビリティの視点で講演頂き、体外計測器に関する標準校正の在り方を検証することを目的として本シンポジウムを開催することとしました。多くの方々の参加をお待ちしています。

1. 開催日：2008年1月22日（火）13：00～17：00
2. 開催場所：東京大学 工学部11号館大講堂
3. プログラム

---

司会：放射線医学総合研究所 鈴木敏和

13：10-13：15 開会の挨拶 日本保健物理学会企画委員長 古田定昭

各講演は30分（質問時間5分を含む。）

13：15-13：45 体外計測器の今後に関する提言

東京大学：小佐古敏荘

13：45-14：15 我が国における体外計測器の現状

放射線医学総合研究所：仲野高志

14：15-14：45 製作側から見た校正用ファントム

京都科学：野村源吾

14：45-15：15 外部被ばく線量測定用個人線量計に関する標準校正の考え方と校正方法について

日本原子力研究開発機構：吉澤道夫

15：15-15：30 休憩

15：30-16：00 内部被ばく線量測定用体外計測器に関する標準校正の考え方と校正方法について

放射線医学総合研究所：鈴木敏和

16：00-16：30 内部被ばく線量評価の為のバイオアッセイ分析に関する放射能評価方法について

日本原子力研究開発機構：武石 稔

16：30-17：00 放射能に関する国家基準の定め方について

産業技術総合研究所：柚木 彰

17：00 閉会挨拶

日本保健物理学会企画委員長

古田定昭

4. 主催：日本保健物理学会、共催：日本放射線安全管理学会

5. 参加費：会員二千円 非会員三千円 学生千円

※準備の都合上、参加予定の方は、1月18日（金）までにその旨下記連絡先までお知らせください。

6. 連絡先：金 うん珠 〒263-8555 千葉県稲毛区穴川 4-9-1

放射線医学総合研究所 緊急被ばく医療研究センター運営企画ユニット 企画・研究推進室

Tel：043-206-4740、Fax：043-284-1769、e-mail：eunjoo@nirs.go.jp

## 理事会報告

### 平成19年度第3回 理事会 議事概要

1. 日時：平成19年6月13日（金） 13:30-16:00

2. 場所：東京大学 アイソトープ総合センター 1F 会議室

3. 出席者

理事：小田（会長）、猪俣、斎藤、酒井、杉浦、谷口、服部、古田、村上

参与：高見、山外

監事：千葉、下

委任出席：林、太田、山澤

4. 議事概要：

(1) 平成19年度第41回研究発表会の準備状況について説明があった。

(2) 編集委員会活動報告があり、査読委員の決定、投稿区分の改訂等の説明があった。また、研究発表会会場での学会誌DVDの販売体制についての説明があった。

(3) 企画委員会報告として、保物セミナーや企画行事の検討状況、及びメンバーリスト会員増強対策について説明があった。これに関連し、シンポジウム等の企画行事の内容の学会誌への掲載の促進が図られていることが紹介された。また今回の研究発表会の内容の学会誌への記事掲載についても検討してはという意見があった。

(4) 国際対応委員会報告として韓国放射線防護学会(KARP)との交流状況、特に同学会より二人を研究発表会へ招待し打合せを行う計画等について説明があった。これに関連し、日韓交流の頻度を「隔年とする」ということで交渉すること、HPの相互リンクや双方学会誌への投稿等への方針、学生交流の継続検討化などの方針について説明があり、了解された。

(5) AOCRP-3の開催地を含めた開催計画等について、小佐古大会長とも相談の上、次回の理事会において方針を決定することとした。

- 
- (6) 放射線防護標準化委員会の状況報告があり、この中で今年中盤以降に「重要な概念」の本文案について公開し、パブリックコメントに伏す方針であることが紹介された。これに対し、コメント募集をシンポジウムなどの企画行事と絡めて実施してはどうかという意見があり、委員会で検討することになった。
- (7) 広報関係では、HP 英語版の改訂を今月中に予定していること、研究発表会について各メディアに案内した件などが報告された。
- (8) 放射線安全管理学会理事会での議論の内容等について説明があり、互いの活動への参加等について前向きに進めることとなった。また、「第19回放射線夏の学校」の計画について紹介があり、専門の異なるいくつかの学会との共催に係る長所短所に関する議論があったが、共催について了解された。若手研や学友会に打診し、その後メーリングリストやHP上での案内を行うこととした。
- (9) 男女共同参画に係るアンケート結果や学友会向けのアンケート結果の研究発表会へのポスター掲示内容等について紹介があった。これに関連し、学生へのキャリアパスを提案するという観点から、若手研を通じた情報提供に期待する意見があった。
- (10) 各理事の抱負、今期の方針について、NEWS LETTER で公開することになった。また、今期の方針としての医療分野の活動強化のため会長指名により追加する理事について、首都大学東京の福士先生とすることが了承された。
- (11) 入退会について承認された。  
 入会：(正会員) 1名  
 退会：(正会員) 1名
- (12) 学会活動等に係る前監事からの提言について紹介があった。
- (13) 今年度における学会賞選考にあたっての方針、スケジュールについて提案があった。スケジュールについては承認され、今後7月を目処に選考委員の選任と必要に応じて運営規則の改訂をメーリング理事会によって行うことが決定された。
- (14) 保物セミナー2007の分担テーマ等について今後早めに検討することとした。
- (15) 環境放射能分野の研究動向に係る原子力安全委員会の調査への協力について了解された。  
 以下メーリング理事会。
- (16) 入会について承認された。(7月5日付)  
 入会：(正会員) 5名
- (17) 日本リスク研究学会第20回研究発表会の協賛について承認された。(7月17日付)
- (18) 入会について承認された。(7月24日付)  
 入会：(正会員) 1名
- (19) 入退会について承認された。(8月3日付)  
 入会：(正会員) 2名  
 退会：(正会員) 1名
- (20) 退会について承認された。(8月13日付)  
 退会：(正会員) 1名
- (21) 第12回放射線プロセスシンポジウムの協賛について承認された。(8月27日付)

#### 平成19年度第4回 理事会 議事概要

1. 日時：平成19年9月7日(金) 13:30-16:30
2. 場所：原子力機構システム計算科学センター(上野) 7F 会議室
3. 出席者：
  - 理事：小田(会長)、猪俣、斎藤、杉浦、林、古田、村上、山澤
  - 参与：高見、古川(次期大会担当)
  - 監事：千葉
  - 委任出席：太田、酒井、谷口、服部、福士
4. 議事概要：
  - (1) 平成20年度第42回研究発表会の準備状況について説明があり、今後のスケジュール、若手発表者奨励の検討等のプランが紹介された。また、当面の運転資金を学会から貸与する件について了解された。また、今後AOCR-3を含めて、研究発表会と学会の会計の区別を明確化することとし、今後「発表会準備金」(仮名)の費目を新設するなどの検討を行うこととした。
  - (2) 編集委員会活動報告があり、企画記事の内容、投稿論文を増やすためのキャンペーン、各国の放射線防護に関する

---

る依頼記事及び学会誌 DVD の今後の販売体制等について説明があった。

- (3) 企画委員会報告として、企画行事（「体外計測器の標準校正に係るシンポジウム」など）の紹介の他、今後の検討課題として医療被ばくに関する課題調査、メーリングリスト加入率向上の計画等について説明があった。これに関連し、新潟県沖地震に係るシンポジウム等の検討も行うことになった。また、企画委員会委員の交代について了解された。
- (4) AOCRP-3 対応状況や 2 カ国・3 カ国交流プログラムについて紹介があった。AOCRP-3 については、日程・会場や組織委員会の構成について早めに小佐古大会長と協議して決定すること、2010 年の学会の研究発表会は中止とすること等が確認された。IRPA-12 について、若手からの論文数を増やすために旅費補助のアナウンスを早めに行うこと、調査団の検討を行うことなどが確認された。
- (5) 放射線防護標準化委員会幹事会の状況報告があり、「重要な概念」に係るパブリックコメントの方針等が紹介されたが、シンポジウムなどの企画行事とするには時期尚早という説明があった。
- (6) 大学等教員協議会・学友会報告として、研究発表会のサテライトシンポジウムとして開催された学生フォーラム等の報告があった。また、学友会の発表会の企画に対して金銭的補助を行うことについて検討することとした。これに関連し、今後学友会の位置づけを明確化することが確認された。また、「若手育成」に係る活動の状況の紹介に関連し、大学における保物関連講座の情報周知等を進めるため、会員名簿を利用したいとの要望があり、これに対応するため、「個人情報保護に関する内規」を早期に作成することが確認された。
- (7) 平成 19 年度第 1 四半期における会計状況の説明があった。また、学会誌への広告の促進を図ることが確認された。
- (8) 日本放射線安全管理学会との協力関係、大学における放射線安全管理教育連絡会への対応等について紹介があった。また、日本電気協会原子力規格委員会放射線管理分科会への協力については積極的に進めることが確認された。
- (9) 若手研セミナーの計画等について紹介があり、「我が国における原子力報道のあり方」というテーマに適した報道関係の講師を検討している等の説明があった。
- (10) 来年度学会賞の選考に関し、学会賞選考委員会運営規則改定案及び今後の選考スケジュールについて了解された。また、選考委員の構成案について承認された。
- (11) 退会について承認された。  
退会：(正会員) 3 名
- (12) 名誉会員の推薦について提案があり、対象者の枠を広げる方針で進めることが確認された。  
以下、メーリング理事会。
- (13) 退会、協賛及び後援について承認された。(9 月 20 日付)
  - ・ 退会：(正会員) 2 名
  - ・ 第 17 回放射線利用総合シンポジウムの協賛
  - ・ 原安委、放医研主催シンポジウム「UNSCEAR 報告書に学ぶこれからの放射線影響研究」の後援
- (14) 後援について承認された。(9 月 28 日付)
  - ・ 日本放射線影響学会シンポジウム「放射線影響における『線量』を考える」の後援
  - ・ 第 7 回重粒子医学シンポジウムの後援
- (15) 入退会について承認された。(10 月 2 日付)  
入会：(準学生会員) 4 名  
退会：(正会員) 2 名
- (16) 入退会について承認された。(10 月 19 日付)  
入会：(団体会員) 1 機関  
退会：(正会員) 1 名
- (17) 共催及び退会について承認された。(10 月 26 日付)
  - ・ 第 45 回アイソトープ・放射線研究発表会の共催
  - ・ 退会：(正会員) 1 名

## 企画委員会報告

### 平成 19 年度第 3 回 企画委員会 議事録

1. 日時：平成 19 年 11 月 26 日(月)13：30～17：00
2. 場所：原子力機構システム計算科学センター
3. 出席：古田(委員長)、谷口、飯本、大内、伴、渡辺<sub>浩</sub>、渡辺<sub>想</sub>、山崎、細田、中田(幹事)
4. 議題

- 
- (1) 第2回企画委員会議事録確認
  - (2) 理事会報告
  - (3) 各専門研究会活動報告
  - (4) 保物セミナーでの企画報告
  - (5) シンポジウム企画の検討
  - (6) 広報報告
  - (7) インターネットグループ報告
  - (8) その他

配布資料

- 3-1. 平成19年度第2回企画委員会議事録(案)
- 3-2-1. 平成19年度第4回日本保健物理学会理事会議事録(案)
- 3-2-2. 平成19年度第5回日本保健物理学会理事会議事録(案)
- 3-3. 日本保健物理学会シンポジウム「中越沖地震を経験して放射線管理の分野で何を学ぶか」企画(案)
- 3-4. インターネット(IG)グループの活動について

5. 議事

- (1) 第2回企画委員会議事録  
前回会合の議事録を確認した。
- (2) 理事会報告  
理事会での議事・報告事項を確認した。
- (3) 各専門研究会活動報告  
各専門研究会担当委員からそれぞれの専門委員会の中間報告があった。
  - ・ ウラン健康影響専門研究会については、現在、報告書を作成中である。
  - ・ 内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正法研究会については、シンポジウムを開催する予定で調整していたが、中越地震の影響で開催を延期した(日程については、再度調整中)。
  - ・ 放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会については、具体的な活動内容について意見交換し、当面の作業としてそれぞれの現場でのコミュニケーションに関する問題点の抽出、学会員対象とした教宣、マスコミとの関係、ホームページの活用などを整理することにしたとの紹介があった。  
また、来年度実施する専門研究会について、11月30日からHP上で公募することとした。
- (4) 保物セミナーでの企画報告  
11月12日から13日に開催された2007年度保物セミナーについて、委員長から、「今年度のセミナーは、10周年ということで参加が多かった。また、テロ及びRIに関するセキュリティの話題が特徴であった」等の紹介があった。
- (5) シンポジウム企画の検討  
今年度企画行事の検討に関連して、ICRP新勧告に関するシンポジウムを1月～2月の間で開催する方向で調整することとし、担当委員は、飯本委員とした。また、現在、企画委員会で医療被ばくに関するシンポジウムの開催について、目的・趣旨等を含め、検討を進めており、本件については、引き続き検討を継続することとした。
- (6) 広報報告  
広報では、報道機関にも情報周知を実施しているが、今後、HPをいかに活用するかを議論する必要がある。また、広報委員会を設置する必要があるかの検討を進める旨の報告があった。
- (7) インターネットグループ報告  
Newsletter No. 49は、1月中旬を目途に発行することとした。また、前回送付分のNewsletterから、Newsletterを郵送している会員についてメーリングリストへの加入をお願いする旨の案内を付けている。本案内については、今年度内は継続してNewsletterに付けることとした。またHTML版のNewsletterについても作業量を調査することとした。
- (8) その他
  - ・ 8月21日に企画委員会の中田博三委員がご逝去されましたので後任として、渡辺想委員が就任した。
  - ・ 若手研からの企画委員会への関与について、若手研から1人参加することとなり、本会合から細田委員が就任した。
  - ・ 次回の会合は、2月22日(金)に開催予定。

(企画委員会幹事 原子力機構 中田 陽)

---

---

## 保物セミナー2007報告

保物セミナー2007が平成19年11月12日から13日にかけて大阪科学技術センターで開催された。保物セミナーは関西地区において毎年ホットな話題を取り上げて開催されており、今回は10周年記念として235名の参加があった。今回のテーマは、1. 危機管理体制、2. 倫理・隠蔽・改ざん問題、3. 電磁界に対するWHOの環境保健クライテリア、4. 原子力分野における人材の育成、5. 特別講演として新潟県中越沖地震と原子力発電施設の耐震対策について、6. 線量概念と測定の最前線、であった。

一日目の危機管理体制のセッションでは、わが国のエネルギー危機や原子力防災指針の改定状況、放射線のセキュリティ等について講演され、続いて倫理・隠蔽・改ざん問題のセッションでは、技術倫理に関する教育プログラムの必要性や、トラブルを隠さない職場風土や教訓を風化させないことが重要との講演であった。

二日目の電磁界に対するWHOのクライテリアのセッションでは、WHOによれば電磁界による健康影響は特に問題ないレベルでコーヒーや漬物と同様なレベルであること、細胞や動物実験では発ガン影響は確認されていない旨等が講演された。続いて原子力分野における人材育成のセッションでは、各大学における現状と取り組みが紹介され、大学や企業の連携、小中学校からの教育の重要性、学生の興味についてなど活発な議論が行われた。特別講演として中越沖地震を受けて原子力施設の耐震について調査が進められていることなどが紹介された。最後のセッションでは、企画委員会枠として、昨年の線量概念専門研究会での議論を踏まえ、線量概念の問題点、ICRP新勧告による外部・内部被ばく評価と対応する現場での最前線の状況について講演と質疑応答が行われた。

(原子力機構：古田 定昭)

## シンポジウム「中越沖地震を経験して放射線管理の分野で何を学ぶか」開催報告

1. 日時：平成19年12月21日
2. 場所：東京大学工学部11号館講堂
3. 出席：59名（会員28名、非会員31名、講師除く）
4. 概要

平成19年7月16日の中越沖地震は柏崎刈羽発電所に被害をもたらした設備などの被害についてはテレビや新聞で報道された。しかし、放射線管理の観点からの情報が乏しく、放射線の測定監視がどのように行われたか、現場放射線管理はどのように対応したかなどの学会員の知りたい内容は十分ではなかった。そこで、今回のシンポジウムでは、現場での放射線管理や放射線の測定・監視などの対応状況と、今後、どのような対策が望まれるか等、中越沖地震に実際に対応された方をお招きして、放射線安全管理学会との共催で標記シンポジウムを開催した。

最初に、東京電力の鈴木良男氏から中越沖地震の概要と放射線管理設備の状況、さらに放射線管理上の対応状況について報告があり、最後に放射線管理上の教訓と今後の対策について説明があった。

次に新潟県放射線監視センターの山崎興樹氏からは放射線監視センターの概要と放射線監視センターの対応についての報告と県民への安全情報の提供にも力を入れてこられたことなどの説明があった。

最後にセイコー・イーアンドジー社の高橋雄二氏からは、地震発生後の測定器メーカーとしての支援活動の内容と放射線測定器に対して考えられる耐震対策の提案があり、その後、講演者との測定器の管理を含む放射線管理対応上の活発な質疑が行われ、盛況のうちに終了した。

### プログラム

- 13:30-13:35 開会挨拶 古田定昭（企画委員長：原子力機構）  
座長挨拶 篠原邦彦（原子力機構）
- 13:35-14:35 発電所における対応 鈴木良男（東京電力）
- 14:35-15:35 新潟県における対応 -地震時の環境放射線モニタリング- 山崎興樹（新潟県放射線監視センター）
- 15:35-15:45 休憩
- 15:45-16:15 放射線測定器メーカーにおける対応 -地震時の核種分析装置の状況と耐震対策- 高橋雄二（SEIKO EG&G）
- 16:15-16:25 質疑応答
- 16:25-16:30 閉会挨拶 篠原邦彦（原子力機構）

(企画委員会：三菱重工 渡辺 想)

## 編集委員会報告

### 平成19年度第3回編集委員会 議事録

1. 日時：平成19年9月14日（金）13:30～16:00

- 
2. 場所：東京大学アイソトープ総合センター1F 講義室
  3. 出席：斎藤（委員長）、木名瀬（幹事）、赤羽、石川、小池、真田、中野、中村、安岡、横山、大倉（若手）、笠原（事務局）
  4. 議題
    - (1) 第2回編集委員会議事録確認
    - (2) 投稿手引きの見直し
    - (3) 研究発表会に関連した記事の提案
    - (4) 論文投稿依頼文書案
    - (5) 企画記事の検討
    - (6) 論文審査状況、42-3, 4号編集進捗状況の確認
    - (7) その他

配布資料

- 3-1. 2007年度第2回編集委員会議事録（案）
- 3-2-1. 「保健物理」投稿の手引き
- 3-2-2. Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authors
- 3-3. 第41回研究発表会に関連した記事の提案
- 3-4-1. 保健物理学会誌への論文投稿の呼びかけ
- 3-4-2. 論文投稿依頼文書案(英文)
- 3-5-1-1. Aパート進捗状況
- 3-5-1-2. 会議情報
- 3-5-2. Bパート進捗状況
- 3-5-3. Cパート進捗状況
- 3-5-4. 若手研究会記事
- 3-6. 論文審査状

参考資料1 「保健物理」投稿規則

参考資料2 平成19年度電子アーカイブ対象誌の選定について

5. 議事
  - (1) 前回議事録の確認
 

2007年度第2回編集委員会議事録が承認された。
  - (2) 投稿規程の見直し
 

「保健物理」投稿の手引きの内容と Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authors の内容の相違について検討した。"Technical Data"などの原稿では、英文要旨の執筆が必要であることを確認した。また、「保健物理」投稿の手引きの内容に対して、Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authors の内容が対応していない部分があるため、11月下旬を目途に見直しをすることになった。
  - (3) 研究発表会に関連した記事の提案
 

第41回研究発表会に関連した内容について、論文投稿の勧誘、印象記などの原稿執筆依頼の状況について報告された。

論文投稿の勧誘については、編集委員長名で21件の投稿勧誘が行われ、7件の投稿意向が得られたことが報告された。
  - (4) 論文投稿依頼
 

国内外の保健物理研究者に対して送信する、論文投稿依頼文書案、具体的な送付先について検討した。保健物理誌において世界の放射線防護に関する連載記事になるように企画していくこととした。既に我が国で講演された国外の保健物理研究者などに、論文投稿依頼文書を送付してはどうかと提案された。
  - (5) 企画記事の検討
 

A, B, Cパートの企画記事について進捗状況を確認した。企画委員会との連携活動、第42回研究発表会のアナウンス、原子力発電所の被ばく低減化に関する特集記事などについて検討した。また、話題に掲載される国内外の会議については、あらかじめ開催日時などを整理して、保健物理学会のホームページや学会誌に記載してはどうかと提案された。

若手研究会のページに関する内容、今後の予定などが確認された。
  - (6) 論文審査状況、42-3, 4号編集進捗状況の確認
 

42-3号の編集状況、次号42-4号以降の掲載論文の審査状況が確認された。Webサイトの引用方法について、早急

---

---

に検討することになった。

(7) その他

(独)科学技術振興機構により実施された平成19年度電子アーカイブ対象候補誌基礎調査について、保健物理誌は今年度の対象誌としては選定されなかったことが報告された。次回の会合は、平成19年12月14日(金)13時30分から、東京で開催されることとなった。

(編集委員会幹事 原子力機構 木名瀬 栄)

## 国際対応委員会

1. OECD/NEA 対応

12月13日及び14日にOECD/NEA(OECD原子力機構)とICRPの共同主催、原子力安全委員会および文部科学省共催の「第4回放射線防護体系の展開に関するアジア地域会合」が開催された。同会合においては、ICRPアジア・オセアニア地域(韓国、オーストラリア、中国、インドネシア、日本、ロシア[発表順])から新勧告に関するコメントが発表された。これに加えて、国内からは、規制当局、医学分野ならびに産業界からも意見具申が行われた。また、IAEAからは新勧告を受けたBSS改訂の状況が、米国NCRPからは、NCRPの活動状況と新勧告に対するコメントが発表された。

国際対応委員会では文科省からの要請を受けて、「日本の放射線防護の専門家からのコメント」として、これまでに国際対応委員会あるいは前身のICRP等対応委員会が取りまとめたコメントの反映状況について発表を行った。

同会合にて、Holm委員長の新勧告の概要を説明したスライド、IAEAの国際安全基準(BSS)のとりまとめ状況に関するスライド、およびNCRPの活動と新勧告に関するスライドを入手した。それぞれ公開の承諾を得たので、HPに掲載する予定である。

2. 新勧告に関するシンポジウム

新勧告が公表されたことを受け企画委員会と連携して、新勧告の概要を把握し、保健物理学会からのコメントの反映状況を確認するとともに、今後のわが国の対応を考える趣旨のシンポジウムを2008年1月下旬あるいは2月上旬に開催する予定である。

## 放射線防護標準化委員会

### 第15回放射線防護標準化幹事会 議事メモ

1. 日時：平成19年12月17日 10:00～12:40
2. 場所：東新ビル 1階 105会議室
3. 出席者：服部理事、猪俣理事、飯本幹事、片岡幹事、鈴木幹事、山本幹事
4. 配布資料：

幹事会15-1. 検討用メモ

幹事会15-2. 7/18幹事会作成案に対して頂いたコメントリスト他

幹事会15-3. 重要な概念(案)

幹事会15-4. 重要な概念(別冊集)

幹事会15-5. 放射線防護標準化委員会運営規則

幹事会15-6. 放射線防護標準化委員会の運営に関する細則

幹事会15-7. 放射線防護標準化委員会スケジュール(案)

幹事会15-8. ラドンに関する線量規準のガイドライン(案)

5. 議事概要

(1) 「重要な概念」の解説の取り扱い

パンフレットの標準化体系図では、重要な概念の構成として、①全体概念、②解説、③事例研究となっているが、体系図上は、②及び③部分を総称して「解説」という名称で扱う。

1/31までに「解説(案)」を作成し、2月上旬の幹事会にて議論する。

「解説」は本文の委員投票及びパブコメ時の参考材料として扱うものではない位置づけとする。すなわち、本文の委員投票及びパブコメと「解説」とは連動させずに、独立して進めることとする。

(2) 「重要な概念」策定作業の今後の進め方

重要な概念のうち「潜在被ばく」については、廃棄物管理も考慮した記載が必要との意見があったことから、この意見を取り入れ幹事会案とする。



スケジュール案を以下とする。

- ① 「重要な概念」幹事案について、委員長・副委員長の確認を受ける。
  - ② 全委員を対象にコメント依頼（2週間）  
【1/7 発信目途】
  - ③ 必要なコメント処理
  - ④ 全委員による書面投票（メールで発信。2週間）【1/28～2/10 目途】
  - ⑤ 第4回 放射線防護標準化委員会の開催  
【2月中旬】
  - ⑥ ホームページ上に公表しパブコメ（30日間）
- (3) ガイドライン・安全規準  
ガイドライン・安全規準の雛形にしようとしている「ラドンに関する線量規準のガイドライン（案）」について、議論を行った。
- (4) 今後の予定
- ・ 1/21 PM 次回幹事会（ラドンのガイドライン関連）
  - ・ 1/31 「解説」の作成締め切り。
  - ・ 2月/月上旬 次々回の幹事会（「解説」の調整作業など

（東京大学 飯本 武志）

## 専門研究会報告

### ICRP 新消化管モデル専門研究会

本専門研究会では、ICRP Publ. 100「放射線防護のためのヒト消化管モデル」について、学会員の共通の理解と情報共有のため活動しています。

第3回会合を12月7日（於 東京）に開催しました。第3回会合ではPubl. 100の第7章（Morphometry and dosimetry（形態計測と線量評価））、第8章（Use of the model（モデルの利用））のレビューを行い、Publ. 100のANNEXを除き一通りレビューが終わりました。今年度はPubl. 100の解説書を作成することを目標としていますので、解説書の記載内容についても打合せを行い、次回会合までに解説書の1次ドラフトを作成し検討することとしました。来年度早々には学会員の皆さんに公開できるように検討を進めたいと思います。また、第3回会合では、石博主査から、特別講演として10月にベルリンで開催されたICRP第2専門委員会2007年会合の概要について紹介していただきました。

当専門研究会は、今後も3ヶ月に1回程度の頻度で開催していく予定です。

（原子力機構 伊藤 公雄）

### 若手研究会

#### I 2007年度若手研究会セミナー開催

若手研究会では、平成19年10月に東京大学アイソトープ総合センターにてセミナーを以下のとおり開催した。

1. 日時：平成19年10月13日（土） 13:30～
2. 場所：東京大学 アイソトープ総合センター 2F 講義室（東京都文京区弥生2-11-16）
3. スケジュール：

13:30～ 挨拶・自己紹介

13:45～ 講演

テーマ：我が国の原子力報道のあり方について考える

講師：中島 達雄先生（読売新聞東京本社 編集局科学部、東京大学大学院 工学系研究科）

講師：三瓶 正三先生（日本テレビ 水戸支局）

質疑応答

—休憩—

17:00～ 自由討論

17:30～ 懇親会

セミナーには若手研内外から24名の方にご出席頂き、その後引き続き行われた懇親会でも講師の先生2名をはじめ多数ご参加いただいた。

講演では、まず中島先生に原子力報道の特徴と問題点を新潟県中越沖地震の「放射能漏れ」報道のあり方を中心にご発表頂いた。その中で、迅速で正確な原子力報道にとって、事業者とマスコミの記者の間で普段から良好なコ

---

---

コミュニケーションがなされていることが重要だと述べられていたのが印象的であった。

次に三瓶先生に茨城県の原子力災害時と核テロ災害時の広域避難・救護計画のモデルについて丁寧な説明を頂戴した。現在ボランティアで実務者レベルの減災モデルを構築されており、なかでも濡れマスクの着用など日常生活で容易に入手できるものを用いて溶解性の高い放射性ヨウ素の摂取を少しでも防ぐことができるといったアイデアが非常に興味深かった。

セミナーの様子等は学会誌やホームページで紹介する予定なので、詳細な内容はそちらに譲ることにする。

最後に、ご講演を頂きました中島先生、三瓶先生、会場のセッティングでお世話になりました東大の皆様、また休日にも関わらずご参加下さいました皆様方に厚く御礼申し上げます。

## II 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は48名です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

主査：吉富 寛 日本原子力研究開発機構

TEL：029-282-6182, FAX：029-282-6169, E-mail：yoshitomi.hiroshi@jaea.go.jp

幹事：高見 実智己 放射線医学総合研究所

TEL：043-206-3112, FAX：043-284-1769, E-mail：mtakami@nirs.go.jp

幹事：山外功太郎 日本原子力研究開発機構

TEL：029-282-5183, FAX：029-282-6063, E-mail：yamasoto.kotaro@jaea.go.jp

(原子力機構 吉富 寛)

## 学会 掲 示 板

### 「学友会」活動報告

2007年12月14日、15日に第一回保健物理学会「学友会」研究発表会が名古屋大学にて開催されました。

学生の発表は全部で23件、先生方の基調講演が5件でした。

参加大学は発表人数の多い順に以下の通りです。

(名古屋大学11名、東京大学3名、藤田保健衛生大学3名、福井大学2名、首都大学東京2名、千葉大学1名、神戸大学1名)

基調講演をしていただいた先生方のお名前は講演順に以下の通りです。

小田啓二教授(神戸大学)、高橋知之准教授(京都大学)、小佐古敏荘教授(東京大学)、福土政広教授(首都大学東京)、細田正洋講師(中央医療技術専門学校)

今年度の東京で開催された保健物理学会において、学生はポスター発表のみだったため、学友会研究発表は全て口頭発表で行いました。私も含めてまだ大勢の前で発表する事に慣れていない学生にとって、とてもいい経験となりました。質疑応答でも質問が絶えることがなく、活発な議論が繰り広げられました。

今回の発表会を通じて、保健物理の学生同士の結びつきがさらに深まったと思います。今後は学友会のメーリングリストを作成し、来年度沖縄で開催される第42回保健物理学会の学生セッションに向けて準備を進めていこうと思います。

(東京大学原子力国際専攻修士1年 嶋田 和真)

### インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。

現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

- ・ 主査兼メーリングリスト管理  
山崎 直(原子力機構)
- ・ ホームページ保守  
中野政尚、古渡意彦、山田克典(原子力機構)、荻野晴之(電中研)
- ・ ニュースレター編集  
佐川宏幸(福山大学)、鈴木敦雄(静岡県)

IG活動へ興味を持たれた方、学会ホームページ等活動内容へ改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス

(jhps@wwwsoc.nii.ac.jp) へメールしてください。

### メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月 10 件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局 (jhps@iva.jp) まで配信先アドレスを連絡願います。

( I G 主査 山崎 直)

### 学会刊行物の案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています(括弧内は残部数)。入手ご希望の方は、NPO 事務センターにお申し込み下さい(送料・税別)。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

1. ICRP Publ. 66 新呼吸気道モデル概要と解説 (1995)	1,777 円	(32 部)
2. ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書(1998)	1,700 円	(53 部)
3. 高度人体ファントム専門研究会成果報告書(1998)	2,000 円	(81 部)
4. 自然界の放射線(能)の面白さ、相互理解の掛け橋に(2001)	1,700 円	(128 部)
5. 人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係(2002)	2,000 円	(159 部)
6. 放射線の人体への影響 第3 版(1986)	800 円	(4 部)
7. 放射線の人体への影響 第5 版(1992)	800 円	(15 部)

連絡先：日本保健物理学会事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-5-3-716 事務センター内

TEL 03-5339-7286 FAX 03-5339-7285 E-mail: jhps@iva.jp

## 会員コーナー<印象記>

### 保物セミナー

11 月 12 日、13 日と大阪で開催された保物セミナー2007 に参加する機会を得た。セミナーの内容は危機管理体制から電磁波に関するものまで多岐に亘ったが、その中から特に印象深かったものについて、感想を述べたいと思う。

倫理・隠蔽・改ざん問題のテーマでは、山名先生が、JCO 臨界事故や中越沖地震での柏崎刈羽原子力発電所におけるトラブルによる風評被害の例を挙げられ、原子力のトラブルによる風評被害の再発防止を強く訴えられたのが印象的だった。この分野に携わる者から見ると、このような風評被害はマスコミの報道によるところが大きいと考えがちであるが、山名先生によれば、マスコミの発表はほとんどが国、自治体、事業者などがリリースした情報の範囲内であるという。つまり、情報を発信する側にも問題があり、マスコミに対して解りやすい説明が重要であるとのことであった。また、情報の隠蔽はもちろんのこと、情報発信の遅れや度重なる修正に対しても、マスコミに対してネガティブな印象を与えるとのことであり、情報発信の難しさを感じた。

電磁界に対する WHO の環境保護クライテリアでは、電磁界の健康影響に関して、WHO によるプロジェクト、細胞・動物研究及び疫学調査に関する紹介があった。電磁界の健康影響は、保健物理とは直接関係はないものの、科学的な結論が得られていないにもかかわらず健康への影響が懸念されているという点で、低線量の放射線による被ばくと似た状況にあると感じた。

線量概念と測定の最前線では、ICRP の新勧告を中心としたお話があった。外部被ばくの線量評価では、中性子や陽子の放射線荷重計数が変更されることにより実効線量は変更されるものの、線質係数には変更が無いことから、実用量には影響が無いとのことであった。また、内部被ばくの線量評価では、すでに新しいヒト消化管モデルが ICRP Publ. 100 として刊行されているが、体内動態モデルについても、主要な 30 元素についての見直し作業が進んでいるとのことであった。とくに印象に残ったのが、小田先生、吉沢先生、石樽先生がともに実効線量の適用範囲について言及されていたことである。新勧告では、実効線量の適用範囲を、

- ・ 防護計画策定及び最適化のための事前の線量評価
- ・ 線量限度、線量拘束値を満足することを示すための事後の線量評価

と明確化しているとのことであり、実効線量に対する誤解を招かないような配慮がなされていると感じた。

最後になりますが、今回で 10 回目となる保物セミナーを成功させ、幅広い分野における様々な話題を提供していただいた実行委員をはじめとする関係者の方々にお礼を申し上げます。

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：鈴木 敦 雄（静岡県環境放射線監視センター）